

データベーステーブル"db.storage"のメリット

説明

Perforce Helix Core 2019.1では新しいデータベーステーブル "db.storage" が追加されました。

"db.storage" は従来の "db.archmap" から置換されるテーブルで、"db.rev"、"db.revsh" および "db.revtx" から構築され、サーバ上のアーカイブファイルのリンク数を管理します。



DB Schema(英語)

[Helix Server Schema Documentation](#)



"db.archmap"から"db.storage"への置換作業は、Helix Core 2019.1へのアップグレード作業に含まれています。

"db.storage"のメリット

1. 新しいコマンド "p4 storage"が追加されました

"p4 storage" はストレージの表示、検証、更新を行うコマンドです。

"-v" オプションを使用することで、アーカイブファイルのダイジェストが計算され、「アーカイブが再作成できない(MISSING)」や「比較結果が一致しない(BAD)」などの結果が確認できます。

"p4 storage -v"コマンドの動作は"p4 verify"コマンドと同じです。



参照ページ

・ [「P4コマンドリファレンス」 - p4 storage](#)

2. "p4 archive"に"-z"オプションが追加されました

"-z"はディスクスペースの使用量を削減するための新しいオプションです。

"p4 archive"は使用頻度の低くなったリビジョンをアーカイブディポに送るコマンドですが、以下の4つの条件を満たすファイルのみが転送可能でした。追加された"-z"オプションを使用することで、コピー、ブランチされたリビジョン(ブランチされた+Snタイプのファイル)もアーカイブディポへの転送が可能になりました。

アーカイブの条件

1. RCS形式ではなく、完全な形式(+F)または圧縮された形式(+C)で保管されたリビジョン
2. ローカルディポ(remoteディポでも別のarchiveディポでもないローカルディポ)に存在するリビジョン
3. 別のリビジョンからコピーまたはブランチされたものではないリビジョン
⇒条件1、2を満たしていて、"-z"オプションを追加すれば転送可能。
4. 別のリビジョンにコピーまたはブランチされたものではないリビジョン
⇒条件1、2を満たしていて、"-z"オプションを追加すれば転送可能



参照ページ

・ [「P4コマンドリファレンス」 - p4 archive](#)

3. ブランチされた+Snタイプのファイルの遅延コピーが可能になります

+Snタイプのファイルをブランチしたとき、ブランチ先が遅延コピーされるようになりました。

4. "p4 obliterate"と"p4 verify"の高速化します

"db.storage" テーブルは、サーバ上のアーカイブファイルのリンク数を提供するため、遅延コピーを識別する複雑さが軽減されるようになりました。そのため、コマンド実行時にファイル・項目の参照時間が軽減され、統合履歴の多いサーバでの"p4 obliterate"を使用したファイルの削除や"p4 verify"による整合性確認が高速化しました。